

つれなきものは命なり。

かまくらやまのはし月夜、

星どるならふひとく、の、

月のむしろにまじらひて、

たちまふ人のうたてさよ。

さくと見しまにはやもちる、

花にもにたる世のなかに、

なにをたのみに玉のをの、

ながきさかえをねがふらむ。

### 怨情

すだれかゝげてたをやめは、

けふも終日ながめたり、

たれを去のふのみだれかも、

かぎりえられず見ゆるなり。

### 烟波吟草五六

獵矢ぬきつくしの海の磯のへにみさこ飛ぶなり射九人もかな  
投くる箭の遠さかり行けは阿蘇の山小手かさせと今は見えなく

溪川生

### 淋しき浦

ちゝのみのちゝの羨ことや、

はゝそばのはゝのみことや、

れもよ父よとたづねわび、

淋しきうらにゆきくれて、

よるべなきさになき沈む、

わらはやあはれみるめかなしも。

### 荒野乃原

えらたまのわがこやいづら、

なよたけのわぎもやいづこ、

わぎもこあよともどめわび、

あれ野のはらにゆきくれて、

たづきもしらすたちまよふ、

をのこやあはれなみだぐましも。

れはろくく 汐霧こむる海中を吳越につく陸の諸山  
 手をかさせは海山晴れて月もよし妻よふ千鳥その聲もよし  
 白雲の五百重かくれの山のへに君を思ひの雲もありけり  
 玄しくしろうまゐの夢を破られて角の音白し有明の月  
 春草の玄けき思ひも君ゆるゑに萌えいてしとは知らてやあるらん

俳句

被露坊選

野分

満月の奈須野が原を野分哉  
牛牽て月になる夜の野分かな

木

岡

菊

寒菊や氷うちわる杓の音  
白菊や志賀の都のあれし勝

木

岡

落葉

まつしぐら木の葉ちりゆく井の中  
御手洗に落葉のたまる大社

木

岡

井

夕ぐれて一葉ねちけりわが庵は  
古井の中に尾花のみだれあいて

女

水

鹿

寒菊の一本咲きぬ井の中  
秋もや井げたの苔の枯てけり  
十月の山に鹿なく小家かな  
丸木橋なくく鹿のわたるらめ

女

塔

女

月

女

月

女

水

女

月

女

水

女

月

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水

女

水